

学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

I 基本情報について

問1 学校名をお答えください。

II 学校における体制について

問2 スクールソーシャルワーカー（SSW）の派遣・配置状況についてお答えください。

（あてはまるもの1つを選択）

- 1 週に2～3回以上派遣・配置されている

2 週に1回程度派遣・配置されている

3 月に数回以下で派遣・配置されている

4 要請に応じて派遣される

5 その他（具体的に： ）

6 派遣・配置されていない

問3 スクールカウンセラー（SC）の派遣・配置状況についてお答えください。

（あてはまるもの1つを選択）

- 1 週に2～3回以上派遣・配置されている

2 週に1回程度派遣・配置されている

3 月に数回以下で派遣・配置されている

4 要請に応じて派遣される

5 その他（具体的に： ）

6 派遣・配置されていない

問4 次のような子どもについて校内で情報を共有している事例はありますか。

（あてはまるものすべてを選択）

- 1 学校を休みがちである

2 遅刻や早退が多い

3 保健室等の別室で過ごしていることが多い

4 精神的な不安定さがある

5 身だしなみが整っていない

6 学力が低下している

7 宿題や持ち物を忘れることが多い

8 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い

9 学校に必要なものを用意してもらえない

10 部活を途中でやめてしまった

11 修学旅行や宿泊行事等を欠席する

12 学校納金が遅れる、未払い

13 その他（具体的に： ）

14 共有している事例はない ⇒

問9

へ

問5 問4で、「14 共有している事例はない」以外を選択された場合はお答えください。

どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。最も多い事例であてはまるものを選択してください。(あてはまるもの1つを選択)

- | | | |
|---------------------------|---|-----|
| 1 不登校の子どもの事例に関する校内の検討体制 | ⇒ | 問7へ |
| 2 不登校以外の子どもの事例に関する校内の検討体制 | ⇒ | 問7へ |
| 3 個別に対応している(決まった検討体制はない) | ⇒ | 問6へ |

問6 問5で「3 個別に対応している(決まった検討体制はない)」を選択された場合はお答えください。関わる教職員、情報共有や検討の方法、頻度等について、具体的に教えてください。(※ 学校以外の関係機関と連携している場合は、問9で当該機関について回答ください。)

問7 問5で「1 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制」または「2 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制」を選択された場合はお答えください。その体制における具体的な情報共有・対応の検討方法について教えてください。(あてはまるものすべてを選択)

- | | | |
|---|---|-----|
| 1 スクリーニング会議※ ¹ | ⇒ | 問8へ |
| 2 ケース会議 | ⇒ | 問8へ |
| 3 生徒指導部・委員会など | ⇒ | 問8へ |
| 4 児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有 | | |
| 5 教育相談コーディネーター※ ² など学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名 | | |
| 6 その他(具体的に： | ⇒ | 問8へ |

※1 すべての子どもを対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援の必要な子どもや家庭を適切な支援につなぐための迅速な識別を行う会議

※2 学校における組織的な連携・支援体制を維持するため、学校内の児童生徒の状況や学校外の関係機関との役割分担、SCやSSWの役割を十分に理解し、初動段階でのアセスメントや関係者への情報伝達等を行う者

問8 問7で「1 スクリーニング会議」「2 ケース会議」「3 生徒指導部・委員会など」「6 その他」のいずれかを選択された場合はお答えください。

どの教職員が参加していますか。また、会議の開催頻度はどれくらいですか。下の選択肢からあてはまる番号を選び、それぞれの欄に記入してください。

	参加者 (複数回答可)	「10 その他」を選択された場合はその内容	頻度
1 スクリーニング会議			
2 ケース会議			
3 生徒指導部・委員会など			
6 その他			

【参加者の選択肢】

1 校長	2 教頭
3 学年主任	4 担任教諭
5 生徒指導担当	6 養護教諭
7 SSW	8 SC
9 民生委員	10 その他

【頻度の選択肢】

1 2週間に1回以上	2 月に1回程度
3 3か月に1回程度	4 半年に1回程度
5 年に1回程度	

問9 学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。連携体制がある場合は、連携する関係機関を下の選択肢からすべてお選びください。

体制の有無	関係機関 (複数回答可)	「11 その他」を選択された場合はその内容
1 ある		
2 ない		

1 市町村教育委員会	2 市町村の福祉部門	3 市町村の保健部門
4 市町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	5 適応指導教室	
6 フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設	7 児童相談所	8 民生委員
9 病院	10 警察や刑事司法関係機関	11 その他

Ⅲ ヤングケアラーについて

問 10 学校で「ヤングケアラー」についての共通認識が図られていますか。
(あてはまるもの 1 つを選択)

- 1 十分図られている
- 2 やや図られている
- 3 図られていない

問 11 学校で「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。
(あてはまるもの 1 つを選択)

- 1 把握している ⇒ 問 12 へ
- 2 ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない ⇒ 問 13 へ
- 3 把握していない ⇒ 問 16 へ

問 12 問 11 で「1 把握している」を選択された場合はお答えください。
「ヤングケアラー」と思われる子どもをどのように把握していますか。
(あてはまるもの 1 つを選択)

- 1 アセスメントシートやチェックリストなどを活用している
- 2 特定のツールはないが、できるだけヤングケアラーの視点*を持って対応している
- 3 その他(具体的に:)

※ ここでは、「学校内にヤングケアラーが存在する可能性があること」、あるいは「ヤングケアラーの児童生徒の立場を考えること」とする。

問 13 ヤングケアラーと思われる子どもについて、学校以外の外部(教育委員会、市役所、要保護児童対策地域協議会*など)の支援につないだ事例はありますか。
(事例の中で最も多いもの 1 つを選択)

- 1 要保護児童対策地域協議会*に通告した事例がある ⇒ 問 16 へ
- 2 要保護児童対策地域協議会*に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだ事例がある ⇒ 問 16 へ
- 3 学校内で対応できているので外部の支援につないだことはない ⇒ 問 14 へ
- 4 外部の支援につなぐことができていない ⇒ 問 15 へ

※ 保護者のない児童又は保護者に監護させることが不適當であると認められる児童(以下、「要保護児童」という。)の適切な保護を図るため、関係機関等により構成され、要保護児童及びその保護者に関する情報の交換や支援内容の協議を行う会議

問 14 問 13 で「3 学校内で対応できているので外部の支援につないだことはない」を選択した場合はお答えください。具体的な対応方法について教えてください。
(例：校内の〇〇会議で検討し、その後保護者も交えて面談をした など)

問 15 問 13 で「4 外部の支援につなぐことができていない」を選択した場合はお答えください。つなぐことができていない理由を教えてください。
(あてはまるものすべてを選択)

- 1 不登校やいじめなどに比べ緊急性が低い
- 2 家族内のことであるため表面化しづらく、詳細な実態の把握ができていない
- 3 ヤングケアラーである子ども自身やその家族が問題を認識していない
- 4 本人や家族が支援につなぐことを拒否している
- 5 その他（具体的に： _____）

問 16 ヤングケアラーなど悩みを抱える子どもの把握や支援にあたって、工夫していることはありますか。(あてはまるものすべてを選択)

- 1 子どもの身なりや言動など、日常生活での目立った変化の確認
- 2 子どもを対象としたアンケート調査などの実施
- 3 定期的な子どもとの面談による悩みなどの有無の確認
- 4 子どもや保護者がいつでも相談できる窓口の設置
- 5 個別の支援計画等の作成と教職員間での情報共有
- 6 子ども本人やその家族が利用できる外部の支援窓口についての情報提供
- 7 悩みを抱える子どもへの対応などについての研修の実施・参加
- 8 その他（具体的に： _____）

問 17 ヤングケアラーなど悩みを抱える子どもの把握や支援にあたって、難しいと感じることはありますか。(あてはまるものすべてを選択)

- 1 問題が表面化しにくく、詳細な把握が難しいこと
- 2 子どもからの聞き取りだけでは、十分に状況が把握できないこと
- 3 保護者への連絡や家庭訪問を行っても、コンタクトが取りづらいこと
- 4 家庭へ介入しづらいこと
- 5 子ども自身に困っている様子は見られるが、話したがないこと
- 6 子ども自身やその保護者に問題意識が乏しい、または無いこと
- 7 保護者から教育方針やしつけなどと言われてしまうこと
- 8 教職員が子どもとじっくり話をする時間が不足していること
- 9 その他(具体的に：)

問 18 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。(あてはまるものすべてを選択)

- 1 子ども自身がヤングケアラーについて知ること
- 2 教職員がヤングケアラーについて知ること
- 3 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること
- 4 SSW や SC などの専門職の配置が充実すること
- 5 子どもが教員に相談しやすい関係をつくること
- 6 ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること
- 7 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること
- 8 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること
- 9 ヤングケアラーを支援する NPO などの団体が増えること
- 10 福祉と教育の連携を進めること
- 11 その他(具体的に：)

問 19 ヤングケアラーに関して自由に意見をお書きください。

調査は以上となります。御協力ありがとうございました。